

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072400346		
法人名	有限会社 筑後優友舎		
事業所名	グループホームさざん家		
所在地	筑後市熊野124番地3 (電話) 0942-42-2328		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 5 日	評価結果確定日	令和 3 年 12 月 9 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

新型コロナウイルス感染の予防に、現在はスタッフ全員で取り組んでいる。唾液式PCR検査を令和3年1月より実施。8月は3回、9月は2回、10月からは1回と毎回16、7名の検査を実施している。家族との面会が途切れているし、外出機会もなく、ボランティア様の訪問も断っているのでスタッフによる楽しいレクリエーションを頑張っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 3 年 10 月 22 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、筑後平野の田畑が多く残る住宅街にあり、市の中心部にほど近く、主要地方道から少し入った利便性も良い場所に位置している。木造平屋に2ユニットあり、広々とした敷地では畑に野菜が育ち、季節ごとに実る果物も多く、利用者の楽しみとなっている。職員は日常的に利用者をありのままを受け入れることを大切にしたケアを目指しており、コロナ禍の現在も、利用者が笑顔で過ごせるような取り組みを職員の工夫で行っている。また、スタッフ同士の関係も良好で、長年勤務を続けている職員が多い。スタッフと管理者とのコミュニケーションも十分に行われている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所運営理念とスタッフ介護実践目標を定めて壁貼りして、日常の介護を実践している	管理者と職員は月1回のスタッフミーティングで理念に沿った取り組みが実践できているか確認している。また、理念をフロアに掲示し、月刊の事業所便りにも明示して、管理者、職員は理念に沿って、利用者がその人らしい暮らしが送れるような支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為に、昨年より地域との繋がり（敬老行事、外出行事、ボランティア様の訪問等）を控えている状態なので、交流は途切れている	毎月、事業所便りを地域に配布している。コロナ禍で現在は中止としているが、事業所で開催される「さざんかまつり」等には近隣の住民を招く等、地域住民と良好な関係性が築かれている。また、町内清掃に参加したり、緊急時の協力関係の確認を行う等、地域との繋がりが途切れないよう努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌『さざん家だより』を町内会に配布していたが、訪問を断っている状態なので配布を休止している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催も休止しているが、さざん家の情報は2か月毎に委員の皆様には配布している。10月からは再開したいと思っている	コロナ禍のため、運営推進会議は現在2ヶ月に1回、書面にて行っている。事業所からは、利用者の状況や取組みの報告をはじめ、運営に関する相談も行っている。各出席者からはアドバイスや意見を聞くようにしており、地域の新たな取組みや情報を得て、これらを運営に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「さざん家だより」は毎月配布している 長年の協力関係は良好に推移している	市町村担当者と情報交換をし、運営上に関する助言や指導を受けたり、市町村からの利用者受け入れの相談を受ける等、事業所は市町村と良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない事を契約書にも、施設見学の方にも説明している	事業所はスピーチロックも含め、身体拘束を行わないケアを目指している。しかし、ベッドからの立ち上がりによる骨折の危険性が高い利用者に関して柵で囲む場合がある。実施に当たっては家族へ説明し、同意を得ている。また、身体拘束虐待委員会による話し合いが3か月毎に行われている。	身体拘束による弊害について理解を深め、環境や支援方法の見直しを常に行い、早期の改善を期待する。その際、経過や見直し内容についても家族へ説明して書面で同意を得ることが望まれる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者以下、スタッフも理解しているし、月に1度のミーティングにも注意事項として話し合っている。その場では注意できなくても管理者には伝え、当スタッフに注意するようにしている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年の講習会にはできるだけ参加するようにしている	権利擁護に関する制度について、必要に応じて家族に説明している。外部の研修を管理者が受講し、事業所内のミーティングで職員に伝達研修を行っている。パンフレットはいつでも閲覧できるように、玄関に準備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約書説明には、必ず時間をかけて説明、納得してもらっている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会には施設スタッフが参加せず、自由にご家族間で話し合う時間をも受けている。その結果を代表者様より伺い、ミーティングで報告。運営にも反映している	利用者は日常的に職員に要望を伝えており、事業所はそれを運営に反映させている。また、家族からは個別ケアに対する要望や、訪問歯科導入の要望等あり、可能な限りこれらを運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで意見を聞いているが、話せないスタッフや話せない事項もあるので、管理者を通じて提案してもらい、その都度、要望や意見を取り入れている	管理者も現場で利用者のケアにあたり、職員が意見を出しやすく、いつでも耳を傾けられるように努めている。入浴方法をはじめ個別ケアに対する職員の気づきを取り入れ、行事の企画も職員が行っている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護向上に資する研修や、各自の努力、勤務状況を給与等に反映する努力をしている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	慢性的なスタッフ不足の現状では、『働いてもらう、貰っている』との認識で、出来るだけ各スタッフの希望や勤務条件に合わせてのシフト等で配慮している	職員の募集や採用にあたり、年齢や性別を条件にしていない。定年後も希望に応じて就労が可能である。また、全ての職員が資格取得やキャリアアップが実現できるよう、シフトの調整や受験費用の援助も行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育が即虐待防止等に繋がる事でもあるので、スタッフ尊重を重視している	職員全員が同和研修やハラスメント防止等の外部研修に参加することで、人権教育を学ぶ機会を設けている。また、事業所内で伝達研修するとともに、職員間で共通理解を深めている。さらに「利用者の権利」を事業所内に掲示し、利用者の人権に関する確認を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染が治まれば、以前のような外部研修を受ける機会を推進していくつもりである		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	筑後市グループホーム部会に参加、毎月の会議に出席し、意見交換している。コロナ前は部会主催の研修もあり、毎回5、6人が出席するようにしていた		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご家庭訪問、病院への訪問をして、初対面の入居にならないようにしている。情報をご家族や介護施設、入院施設から集め、スタッフに提示し、不安を与えないよう努力している		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問、面会、契約時にゆっくりとご家族の要望、過去の状況をお聞きして、1週間後、1カ月後の様子を報告している		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	この頃では医療施設からの入居が多いので、医療面は担当医師からの紹介状、介護施設からの添書などで対応している		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	半数のスタッフが利用者と親子ぐらいの年齢であるため、話の内容的にも介護する相手というよりは親戚の年寄りみたいな感覚になり、良好な関係性を築けている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症が進んでも子供を思う親心、親を思う子供の心を第一に考え、スタッフは介護させて貰っている、という立場を忘れないように話し合っている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	好きな事（例えば、歌番組を見る、日光浴等）を大事にする、近所の方の訪問を受ける事などを支援している	馴染みの人や場所は、本人や家族、医療機関の関係者から情報を収集し、職員間で共有している。コロナ禍における現在は、馴染みの場所へドライブしたり、施設の玄関先で家族との面会支援を行う等、利用者の馴染みの関係の継続に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの座席位置、レクリエーションの不得意・得意事、発言の順序等に配慮している。互いに会話していても聞こえない人同士では間に入り、仲介をする等している		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人情報の関係もあり、退去先や入院先に訪問できないが、ご家族からの問い合わせには応じている		



項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どうしても認知症が進み、本人の希望、意向を伺うのは困難が生じてくるが、その時々表情や言葉をスタッフ間で共有して介護方針にしている	事業所は、利用者とは入所前に必ず面接の機会を持ち、情報収集するようにしている。面接の場での言葉遣いや表情から得られた情報等についても職員に伝え、共有している。入所後も、日々の観察や支援から利用者の思いや意向の把握に努め、得られた情報を共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の紹介施設の報告、ご家族の話を参考にして介護方針を決めている		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を全スタッフで読めるようにして、スタッフミーティングでも一人ひとりのカンファをすることで、スタッフ全員の胸痛認識に偏りがないようにしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言葉、家族の希望、介護現場でのスタッフが感じた事などをユニットミーティングで話し合い、介護方針に反映している	毎月のカンファレンス会議では利用者全員についてモニタリング(ケアプラン内容確認及びサービス提供状況報告)し、その間の医務指示、処方箋変更等を確認した後、日頃の観察や家族から得た新たな問題点を検討し、ケアプランに繋げている。急ぎ検討すべき問題が生じた際には、随時、ユニット会議を開催している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症は進行していくものなので、利用者の言葉、行動等を共有し、介護方法に反映している		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居していると体形が変化し、衣服のサイズも変わるので、ご家族の了承を得てスタッフで衣服の購入。病院への受診、入院中の衣服洗濯・交換、送迎も行っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣町の銀杏並木見学、市内田んぼの菜の花見学、市内神社への初詣などコロナ感染予防しながら、ドライブ形式で実施している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療連携医との契約。市立病院、今までの病院等への受診、通院をさざん家看護師が支援している	診療体制の充実度、家族負担の軽減性等により、内科については入所時に連携医療機関の利用を薦めている。その他の専門科医については、今までのかかりつけ医による受診を支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気づきから病気発見につながり、重病化も予防できるので看護師報告は大事にしている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の衣類洗濯、SWとの連携、退院時の報告書等を重視して以後の介護に役立っている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、最期をどこで迎えたいか等は大切な事として、ご家族との話し合い、看取りをご希望する家族とは連携医師を交えて話し合うようにしている	入所時に利用者・家族が希望すれば事業所の設備・環境で対応できる範囲で看取り介護を行うことができることを伝え、基本姿勢や対応方針などについて説明している。家族についても支援の一環として宿泊場所、休憩場所等を提供している。また、利用者や家族の状況の変化に応じて、随時話し合いを行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の火災避難訓練を実施し、緊急時の連絡網の整備をしている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害避難は受けない地形なので、主に火災、地震時の利用者避難を考えている。避難先の施設は車椅子利用者が多いさざん家では不向きなので、市役所には施設倒壊がない場合は、この場所に留まるとの方針を伝えている	避難訓練は年2回行われており、訓練の度に反省会で課題を挙げて次回訓練へと繋げている。コロナ禍以前は地域に案内して参加者もあったが、現在は案内していない。事業所近隣の戸建て住宅の住民とは、緊急時に応援が得られる関係ができています。事業所内、敷地内倉庫に備蓄品は保管されている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じた質問や話しかけをして、自慢の話をして貰えるように話を誘導している	全職員に「守るべき倫理綱要」、「利用者の権利」を基本的姿勢として、採用時に渡している。現在は、外部研修が行われていないため、事ある毎に機会を捉え管理者が利用者の尊厳・プライバシーの確保について、事業所の基本姿勢として全職員対し再確認を促している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での問い掛けも大事だが、返答の言葉が出ない利用者もいるので、物を見せて選んで貰う、表情で理解する事も大事にしている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食、昼食、入浴、夕食は動かせないが、午前レク内容、夕レク内容はスタッフにより外気浴したり、一人ずつの散歩、パズル、歌、ゲーム、クイズ等自由に選択。天気、気温、風の吹き具合にも影響する		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者がほとんどなので、服選びは大事である。風呂上がりの髪もどのくらい温風にするのかも敏感な利用者もいる		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理準備はしていないが、フキの皮むき、干し柿づくり、ジャガイモの皮むき等を手伝って貰っている。また、おはぎ作りは全員大好きなので、よく行うレクになっている。食後のお盆拭きが大好きな利用者もいる	食材は外注し、3食とも事業所で調理している。調理場とホールの間には仕切りがなく、調理場の匂いが事業所内に漂っている。形態や量についてはその場で随時対応している。食事は楽しく摂って欲しいので、利用者間の言葉や表情のやり取りに注意して、少しでも気持ちよく食事ができるよう席の配置に気を付けている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に残している。糖尿病の利用者が入居したので、糖分や野菜などに注意している		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、夕食後の歯磨きは励行している。訪問歯科を利用した航空ケアを受けている利用者もいる		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛け、表情を見て誘導、定時でトイレ誘導等を行っている。料金額にも直結するので、介護用品使用は注意している	利用者が示すサインを受けて職員は対応している。サインを十分に把握できていない利用者については、時間を見て声かけや案内をしている。トイレ内には個室が3つあり、それぞれに向きや造りが違っており、職員は利用者に合わせて案内している。夜間についても、ポータブルトイレを使用できる利用者については、ポータブルトイレを貸し出して排泄支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	フキ、ごぼうは便秘を軽減し、秋の熟柿も便秘解消に役立つ。フットバイク（座る自転車漕ぎ）も有効である		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	シフトの関係上、希望の時間に入浴は難しい。また、浴槽に一人で入れる利用者が少なくなったが、入りたいという利用者には2人で抱え浴槽に。シャワーでお湯を20分以上希望する人もいる	日曜以外はお風呂の用意をし、希望に応じて入浴ができるよう支援している。利用者一人一人について、その人に合わせた声かけや案内の仕方に努めている。また、入浴しない場合も、清拭や更衣して清潔の保持と皮膚トラブルの防止に努めている。	日曜日以外と定めずに、利用者が入浴したい日、時間に合わせて入浴できるよう期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝、昼寝、夕ね、夜と1日中眠りたい方もいる『寝るのが極楽』と言われて。また部屋で寝るのはイヤと言われてイスでうとうとが好きな利用者もいる		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護スタッフが一括把握し、薬局からの説明、薬の説明書をそれぞれの利用者毎にファイルしている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最高齢の利用者様は毎日新聞を読み、読書し、テレビを観て、午前10時の牛乳1杯。またこの方ともう1名、日記を付ける方もいる。宗教書を持って来てもらい毎日読む。外を見て歩いている人へ手を振る利用者もいる		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防の為に、昨年より中止しているが、ドライブ形式で周回した事がある	事業所敷地内や周囲の散歩については、利用者の希望や天候に応じて随時実施している。外出行事については、車から降りないで窓越しに眺める方式で、季節の花など見物に出ている。リフトカーも所有しているので、利用者と外出したい希望があれば貸し出せることを折に触れ、家族に伝えている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症なので、ご家族に対し、入居時に「無くしても良い金額を」と話している。使う時は立て替えて、請求書に計上する		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	記憶している番号がなかなか正確でなかったり、固定電話は留守番設定になっていたりと、と掛けるのは難しい。掛かってきた電話は取り次いで通訳(?)する事もある		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	決まっているのは食卓での座席なので、自由に歩ける人は好きなイスに座って貰っている	台所はホールの横にあり仕切られていないため、献立を調理する匂いが事業所内に漂っている。また、利用者が日中を過ごすホールに置かれているテレビには、高齢者が聴き取りし易い特別なスピーカーが取り付けられている等居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者が隣になるよう、部屋から出てすぐに座れるよう、トイレに行きやすい等を配慮している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に好きな物や写真、テレビ等を転倒しないよう配置している	各部屋にはベッド、エアコン、押し入れが装備されている。部屋の窓は大きく、室内はとても明るい。床に座る習慣のある利用者は低い机を持ち込んで、読書や創作作り等を楽しんでいる。当事業所には車椅子利用者が多くあり、その人の移乗動作に合わせてベッドは配置されている。皮膚トラブル防止のため、リスクの高い利用者にはエアマットを貸し出している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋作りなので段差はないが、それでも転倒の恐れがあるので自由に自立した造りとは難しい		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
			○	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所運営理念とスタッフ介護実践目標を定めて壁貼りして、日常の介護を実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為に、昨年より地域との繋がり（敬老行事、外出行事、ボランティア様の訪問等）を控えている状態なので、交流は途切れている		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌『さざん家だより』を町内会に配布していたが、訪問を断っている状態なので配布を休止している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催も休止しているが、さざん家の情報は2か月毎に委員の皆様には配布している。10月からは再開したいと思っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「さざん家だより」は毎月配布している 長年の協力関係は良好に推移している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない事を契約書にも、施設見学の方にも説明している		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者以下、スタッフも理解しているし、月に1度のミーティングにも注意事項として話し合っている。その場では注意できなくても管理者には伝え、当スタッフに注意するようにしている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年の講習会にはできるだけ参加するようにしている		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約書説明には、必ず時間をかけて説明、納得してもらっている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会には施設スタッフが参加せず、自由にご家族間で話し合う時間をも受けている。その結果を代表者様より伺い、ミーティングで報告。運営にも反映している		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで意見を聞いているが、話せないスタッフや話せない事項もあるので、管理者を通じて提案してもらい、その都度、要望や意見を取り入れている		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護向上に資する研修や、各自の努力、勤務状況を給与等に反映する努力をしている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	慢性的なスタッフ不足の現状では、『働いてもらう、貰っている』との認識で、出来るだけ各スタッフの希望や勤務条件に合わせてのシフト等で配慮している		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育が即虐待防止等に繋がる事でもあるので、スタッフ尊重を重視している		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染が治まれば、以前のような外部研修を受ける機会を推進していくつもりである		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	筑後市グループホーム部会に参加、毎月の会議に出席し、意見交換している。コロナ前は部会主催の研修もあり、毎回5、6人が出席するようにしていた		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご家庭訪問、病院への訪問をして、初対面の入居にならないようにしている。情報をご家族や介護施設、入院施設から集め、スタッフに提示し、不安を与えないよう努力している		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問、面会、契約時にゆっくりとご家族の要望、過去の状況をお聞きして、1週間後、1カ月後の様子を報告している		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	この頃では医療施設からの入居が多いので、医療面は担当医師からの紹介状、介護施設からの添書などで対応している		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	半数のスタッフが利用者親子ぐらいの年齢であるため、話の内容的にも介護する相手というよりは親戚の年寄りみたいな感覚になり、良好な関係性を築けている		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症が進んでも子供を思う親心、親を思う子供の心を第一に考え、スタッフは介護させて貰っている、という立場を忘れないように話し合っている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	好きな事（例えば、新聞を読む、歌番組を見る、日光浴等）を大事にする、近所の方の訪問を受ける事などを支援している		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても認知症の程度によってテーブルの座席位置、会話が成り立つような座席位置となっている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人情報の関係もあり、退去先や入院先に訪問できないが、ご家族からの問い合わせには応じている		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どうしても認知症が進み、本人の希望、意向を伺うのは困難が生じてくるが、その時々表情や言葉をスタッフ間で共有して介護方針にしている		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の紹介施設の報告、ご家族の話を参考にして介護方針を決めている		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を全スタッフで読めるようにして、スタッフミーティングでも一人ひとりのカンファをすることで、スタッフ全員の胸痛認識に偏りがないようにしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言葉、家族の希望、介護現場でのスタッフが感じた事などをユニットミーティングで話し合い、介護方針に反映している		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症は進行していくものなので、利用者の言葉、行動等を共有し、介護方法に反映している		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居していると体形が変化し、衣服のサイズも変わるので、ご家族の了承を得てスタッフで衣服の購入。病院への受診、入院中の衣服洗濯・交換、送迎も行っている		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣町の銀杏並木見学、市内田んぼの菜の花見学、市内神社への初詣などコロナ感染予防しながら、ドライブ形式で実施している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療連携医との契約。市立病院、今までの病院等への受診、通院をさざん家看護師が支援している		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気づきから病気発見につながり、重病化も予防できるので看護師への連絡や報告は大事にしている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の衣類洗濯、SWとの連携、退院時の報告書等を重視して以後の介護に役立っている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、最期をどこで迎えたいか等は大切な事として、ご家族との話し合い、看取りをご希望する家族とは連携医師を交えて話し合うようにしている		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の火災避難訓練を実施し、緊急時の連絡網の整備をしている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害避難は受けない地形なので、主に火災、地震時の利用者避難を考えている。避難先の施設は車椅子利用者が多いさざん家では不向きなので、市役所には施設倒壊がない場合は、この場所に留まるとの方針を伝えている		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じた質問や話しかけをして、自慢の話をして貰えるように話を誘導している		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での問い掛けも大事だが、返答の言葉が出ない利用者もいるので、物を見せて選んで貰う、表情で理解する事も大事にしている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食、昼食、入浴、夕食は動かせないが、午前レク内容、屋前のレク内容はスタッフにより外気浴したり、一人ずつの散歩、パズル、歌、ゲーム、クイズ等自由に選択。天気、気温、風の吹き具合にも影響する		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者がほとんどなので、服選びは大事である。風呂上がりの髪もどのくらい温風にするのかも敏感な利用者もいる		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理準備はしていないが、フキの皮むき、干し柿づくり、ジャガイモの皮むき等を手伝って貰っている。また、おはぎ作りは全員大好きなので、よく行うレクになっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に残している。糖尿病の利用者が入居したので、糖分や野菜などに注意している		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、夕食後の歯磨きは励行している。訪問歯科を利用した航空ケアを受けている利用者もいる		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛け、表情を見て誘導、定時でトイレ誘導等を行っている。料金額にも直結するので、介護用品使用は注意している		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	フキ、ごぼうは便秘を軽減し、秋の熟柿も便秘解消に役立つ。フットバイク（座る自転車漕ぎ）も有効である		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	シフトの関係上、希望時間の入浴は難しい。また、浴槽に一人で入れる利用者が少なくなったが、入りたいという利用者には2人で抱え浴槽に。シャワーでお湯を20分以上希望する人もいる		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝、昼寝、夕ね、夜と1日中眠りたい方もいる『寝るのが極楽』と言われて。また部屋で寝るのはイヤと言われてイスでうとうとが好きな利用者もいる		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護スタッフが一括把握し、薬局からの説明、薬の説明書をそれぞれの利用者毎にファイルしている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外を見渡せる場所へイスを配置したり、テレビを真ん前で見たい人へのテーブルの配置など配慮している		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防の為に、昨年より中止しているが、ドライブ形式で周回した事がある		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症なので、ご家族に対し、入居時に「無くしても良い金額を」と話している。使う時は立て替えて、請求書に計上する		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	記憶している番号がなかなか正確でなかったり、固定電話は留守番設定になっていたりと掛けるのは難しい。掛かってきた電話は取り次いで通訳(?)する事もある		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	決まっているのは食卓での座席なので、自由に歩ける人は好きなイスに座って貰っている		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話せる利用者が隣になるよう、部屋から出ですぐに座れるよう、トイレに行きやすい等を配慮している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に好きな物や写真、テレビ等を転倒しないよう配置している		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋作りなので段差はないが、それでも転倒の恐れがあるので自由に自立した造りとは難しい		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない